

ヨシ群落周辺における魚類生息状況調査からみた フナ・モロコ仔稚魚がおかれている現状

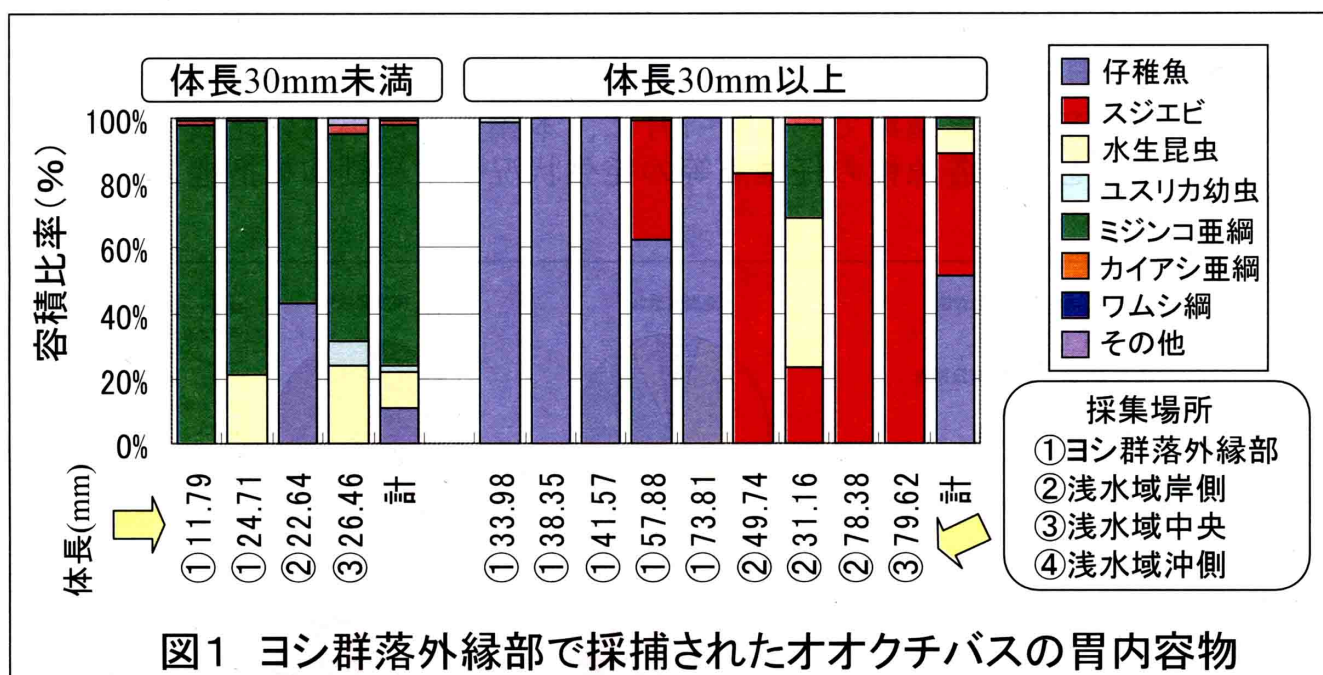
臼杵 崇広

◆背景・目的

湖北町地先のヨシ群落周辺水域においてフナ類やホンモロコの仔稚魚を含む魚類相を調査し、それら仔稚魚がおかれている現状を評価した。また、フナ類へのオオクチバスによる食害や両種間の餌の競合の程度を評価するために、オオクチバスとフナ類の消化管内容物を調査した。

◆成果の内容・特徴

- 湖北町地先のヨシ群落およびその周辺水域において平成16年5月から11月まで小型曳網、小型沖曳網および小型ビームトロール網により魚類採集調査を行った。その結果、フナ類やホンモロコの仔稚魚が生息する水域には、オオクチバスやブルーギルといった外来魚が多く生息していることが確認された。
- オオクチバスの胃内容物調査の結果から、ヨシ群落外縁部では大型のオオクチバス稚魚がコイ科魚類の稚魚の他、オオクチバスやブルーギルなどの稚魚を捕食していることが明らかになった(図1)。また、小型のオオクチバス稚魚はフナ類稚魚と同じくミジンコ亜綱を捕食していることから両種間で餌の競合が起こっている可能性があると考えられた。



◆成果の活用・留意点

- ヨシ群落外縁部では食害や餌の競合の面からフナ類稚魚に対してオオクチバス稚魚が悪影響を及ぼしていると考えられる。このため、ニゴロブナの増殖を推進するうえで、この水域におけるオオクチバス稚魚の積極的な駆除が重要である。